



^13
3157
3



1878
C

Handwritten text in Chinese characters, including a large central character '一' and other illegible characters.

Vertical text on the right side of the left page, possibly a title or date.

Small vertical text on the left edge of the page.

Small vertical text on the left edge of the page.

Blue ink markings or stamps on the right edge of the page.

へ13
3157
3

怪談奇俠夜行

一人のきいり



開卷驚奇俠客傳第壹集卷之三

東都 曲亭主人編次

第五回

林住の謁しと南將舊縁と感念
便宜と演々老尼村酒と薦む

却説新田貞方主六畑六郎二時種を従へ。千葉の城下程遠らぬ福草村を
過る。この道は昔よりこの通り。草の庵ありけり。左右を樹牆小折環らる。柴
門の小牌を懸て今日休ト。と云ふなり。あるを賣ト。とて口を鯛。小優婆塞。然と清まる
の時。時小這共の蒙鶏。さるべ。黒と赤と三隻の雄鶏の穿れとせ。一箇は。一往
争ひ々堪む。あるけん項毛と怒起。距を揚ぐ。聞かす平响。許一箇。是怒ると。一往
谷と落さん。とけり。勢あり。一箇の亦暴。さる黄能。樹と接ん。とる。不異。然。一往一往
虚々実々。紛々として散る。羽の御室の山の秋風。楓葉を龍田流。去る像。霧々と

全三

大てんて
志同

常五

東都 曲亭主人編次

東都 曲亭主人編次

去る蹴賜る沙の野作けあぐいさの存ありて高濱たまたまの胡沙起曇こさぎふ似あるべし。此彼共これらも血冷ちまむ。
 片息ひといきあつてもも。屋間やまを己おのざりしが赤あかは音ねの挑難たごて辛あつく引ひ外そと走はりて柴門しばいの
 内うち入いりし黒くろはの鳥とりも逃にげ下くだりて葛くわ地ちを好あむる。登時のぼり裡うちの老女らうにょの声こゑも。這この生せい
 然しかんその所以ゆゑも。生せい平へいの送くり小睦こむつく。争あふこのありし。けいふる。や戦いくさひけ。獨ひとり言ことら沈吟しんぎんして
 折をま。絶果つたたふ似あれぬ。為なる西国さいこくの菊池きくちあり。東国とうこくの新田しんでん自餘じよの人々ひと忠臣ちゆうしん義士ぎしと弓
 北畠きたはた大和たいわの越智えち伯耆へき名和なわ或あるの武家ぶけ。足利あしひ氏うぢ。小餅こもちを伏ふせ或あるの邊鄙へんびも世よを曆かる。
 その中ちゆう央おうの薪まきの伏ふ。炭すすと吞の貌かたちを窺うかがひて。再また義兵ぎへいを起おこさんと。多少たうしやうあり。えや俺おれ素す
 鶏けいの聞戦きんせんも赤あかは。則すなはち南方なんぽう残燼ざんじん黒くろは。則すなはち北方ほくぽう水徳すいとく既すでに時運ときうんと。うらと。後のち具
 勝負しょうぶの料りやうも。ど。う。い。そ。那方なほうが。この地ちも。来きま。ま。と。あ。ふ。を。必かなく。俺おれ大檀那だいたんだなの商量しやうりやう
 敵たかめせられぬ。の。と。谷やの狙猴そごうの水みづの月つきの。と。と。を。撈あれ。も。迹あとも。ほ。と。ほ。と。薄情うすじやうま。と。と。

咳せきしてを鳴なり立たる。外面うへめんの貞方ていほう主ぬし後のち那な鶏けいの聞戦きんせんも。柴門しばいの頭かぶの。其その々々
 宵よ甘あまふ。樹牆じゆくわうの内うちの。人ひとの。獨ひとり語ごを。事こと情じやうの。うら。後のち具す。退ひりて。烟けむり時とき種むねと。共とも侶りよの。
 樹間じゆま尋たづねて。闕くわ窺くわうの。菴あん主ぬし。一ひと個この。女僧にょそうの。齡らじの。五い十じゆあり。る。高折戸たかぢりの。其その陰かげあり。
 貞方ていほう主ぬし時種ときむね小目こめと。注つぎ。又また退ひりて。然しかん。と。宣のたまふ。残のこる。夏なつの。堪たむ。草くさ菴あんの。
 檐下えんか借かりて。憩いふ。雲くも時とき汗あせも。さ。ぐ。且かつ一ひと碗わんの水みづと。と。と。渴あせ。躪ふ踏ふさ。愉たのし。ん。呼よ門かど
 せ。と。急いそぐ。火ひの時種ときむねと。ま。その。意いを。悟さとりて。現げん宜ぎふ。と。這この頭かぶの。總すべて。野田ののちも。れ。憩いふ。死し
 蔭かげも。い。他た宵よせ。概ある。牌はいの。休やすむ。と。あ。れ。賣うむ。の。休やすむ。日ひの。い。も。請ころ。去い向むかひ。吉きち凶きゆうに。
 知しる。も。扱あつ。さ。び。や。先まづ。と。の。ひ。も。と。柴門しばいの。立たち。と。卒そつ介けも。ま。の。ま。も。身み小僧しよそう主ぬし
 従したがひ。旅りよ客きやくも。多おほし。亭午ていごの。秋あき暑あつも。路みち去さる。あ。む。具ぐ。檐下えんかの。憩いふ。と。水みづ一ひと碗わんと。あ。つ。ふ。の。よ。
 る。功こう徳とくの。い。の。美みを。瀧たきめ。と。ま。る。人ひとの。仰あやられ。と。あ。れ。と。さ。庵あん主ぬしの。女僧にょそうと。あ。
 答こたへ。て。ま。尽つく。徐じゆの。門かど邊へも。出でて。ま。左ひだり見み右みぎ見みの。領うけ。も。ま。と。易やすに。あ。つ。る。日ひの。朝あさも。南なん

風をれが這日盛りのふと何処へもなれば主共侶の這方へ入るといふ休みの心とて
 主後の介らふ介らふと引れり裡へ入る程の貞方主立脱捨て先ふ正
 屋を縁類の尻を拭くを庵主の女僧のたふと其首の目景の近なる必要時より
 とも草鞋を釋ておと身伴のふらふの這首の背門より吹融せいの涼をたふとよ
 喃々と真実をて管待親切なるを推辞せむもあられの恥てその意を任する主後
 存一草鞋を解き貞方主の正屋より頭へ坐せ占めんと女僧と連り小請
 薦めの上座を推のふ却る迹の時種と處りと爐の火を掻起し鏝子をもて拵
 試み沃ぐ茶碗の破焼と共の昔の二荒盆の棄せて温茶と吸せり誘を薦
 依り能く主後の飲びを演々たふとておとせりてやなげく湯を醫けり且くと女僧が
 のさう刀袷の何国より何処へもなれば女も千葉さの城内の相識ありて来ませり
 と向むる方あり氣取る否千葉殿の城内の由縁と云ふをう。俺們的鎌倉より主後

二人で遊歴をまされ真間の古蹟もたまはる。且宿願の鹿嶋香取の両社詣ん
 とこの旅のふらふふ共主の賣下を生活のあゆみうけぬ又其の故小休との牌を
 門の柱に掛られけし其の旅客のけし言凶を問ふも異日の再會料り巨多。俺宿
 望の成就をたて又成就をたて又願の枉てうな為の一算施しひてよと請れて女
 僧の眉根を頼めるとこの日易はとてが。賤尼がまをるの銭トを。著者を數て八卦の由
 る周易のあらむ。さうりあつてあつて。音は訝り後縁故を報まうさんか
 と急流のふらふの賤尼の少り一時よりて親世音を念とまうて並門品を讀むるよ
 懈る日とそいふけれど。過世々々て良人を喪ひ贖獨子を先せと。よるまはたありあり
 遂の頭髪を剃捨り。這首の髪を結ぶ。彼此人の託鉢して絶つ口を餽ひぬる素
 より田舎ののるれが身いぢらね。頭ひぢらる。廻国せよと云ひ折有一々の夢の觀世
 音の示現と被りぬる不思議の得る銭トの奇特もよて人の為その口凶を

伏魔傳第一 轉卷三

羣玉堂刊

餅と供物あまの。常香盤より鬘鬘と立升る香の煙の補陀落山の雲と疑ら
 る。鳴る木魚の音の蕭然として祇陀林の降伏の雨も似るべし。登時妙算の雲時
 菩薩と祈念し御前安置る錢六文を取下し擲つ所既中と顯れる。其錢は圓月
 の吉凶を知らずやわづけん徳者三三ひかりて錢を菩薩に返すまをせ。負方主をたふそ
 占北のうへもる大吉をゆる且その輝の勢を御佛まうし。其後詳報は
 らん且く等せぬひとあるるさる恭しく一弓の経を繕はく。並月品を讀らければ負方
 主のそる妙算の後邊の在とる。佛壇を本尊の左右の建方位牌
 多中の金龍寺殿贈正二位黃門真山良悟大禪定門建武四年丁丑秋国七月二日と
 記せし義貞卿を祀れる。左の方の春宮亮義顯朝臣左兵衛督義貞朝臣及
 負方主の先考を祀る。左少將義宗朝臣の位牌あり。又その右の方の刑部
 卿義助卿の子右衛門佐義治朝臣及近屬底倉を亡びぬ。右少將義隆

朝臣の位牌さ措れる。但臣のそるの。額田鳥山江田桃井大館堀口に至る
 まで新田の氏族の先靈を祀らぬも。心訴りて紙門の対面あり。時種
 時種をええ。竊は指さし示ぬ。時種も亦元を駭驚つ又討て。御前柴門に
 頭を赤黒三雀の鶏の大く閉ひし。時那菴主の尼法師が。自らあつとをへ。自
 方子由縁の。あるん。便り。靴を隔て。擲り心地し。と
 多と又黙して。既ふと妙算の経讀果る巻收め。誘とる。負方主の。と
 立て故の席の速れ。時種も快退。復縁類の。當下妙算の。負方
 主の。對して。今も壽終なり。占北の大吉。君の南方火徳。九紫の陽數あり。と
 へ。一白の水封せ。久く本意。遂に。然れ當国。來致せ。思ふ。優
 資助。宿望成就。因。執考へ。君の。妻。を。几席
 武士の。相。必南朝。名將。他人。

つれづれ賊尼の諱をせぬひるは出立のあつて幸ひあらん願ふ名は口せぬへくと同様に駭く
 貞方主の思後方とて之を齊一驚く時種と画と照と忙然と心難きをめいど如
 算のあつてもとら領たる声と低めて疑ひの理り然らば且賊尼が素生と報せらる
 鳥許のあつてもとら領たる声と低めて疑ひの理り然らば且賊尼が素生と報せらる
 千景宗詩第の老黨也主君宗胤と共侶の二井寺合戦の時戦歿せりと
 家の口碑の傳存り又賊尼が父とゆるる権九郎直伸の宗胤の父子と胤貞主と仕
 まるの年来肥前州の在り嗣子ども多り一久朋輩の二男ありける権七実仲と頼之
 俺身と妻せらるる一久後主君胤貞と共侶の二親も世を逝らる折々南北両朝の御
 合體よりて宮方を城に送る攻落され然も累世鎮西也勇將の勢え高き一菊池
 殿も足利家へ兎と脱れ伏せて降参する時宜るれ主君の迹の事りも高き肥前の
 領地と削られて家長も離散とされ賊尼が亡夫実仲の父祖の故郷でゆるる信下

総て千景宗詩第の老黨也主君宗胤と共侶の二親も世を逝らる折々南北両朝の御
 合體よりて宮方を城に送る攻落され然も累世鎮西也勇將の勢え高き一菊池
 殿も足利家へ兎と脱れ伏せて降参する時宜るれ主君の迹の事りも高き肥前の
 領地と削られて家長も離散とされ賊尼が亡夫実仲の父祖の故郷でゆるる信下
 賜りしものあり本後二井寺也戦歿せし折總大将義貞の
 上とての辱は仰りし主君宗胤の亡骸と共侶の遺骸を厚く重んずるべしと云々御恩と
 二親の時々のあつて俺們が世を逝らるる那御并新田殿の御一族のあは甚提の宗胤と
 異なるはとてと吊ひなれとわれの傍りにて茶を締び初より亡君宗胤胤貞と共侶の
 りし節の後世のあり大納新田の御一族のあは位牌之本尊の左右に安措せし且其の
 回向と懈らるる年来まゝあるは而賊尼の鏡の被此の事りも今の城主平葉介
 兼胤もあは佳くと告せりしものあり又賊尼の素生と知り召れ他が父祖の肥前高
 家の仕りのありの口とせらるるけりしものあり西国也の緯の趣は碑の傳存りしものあり

満洲の遊
去と鎌倉
大草紙の
応永五年
と記す
むす
管領衣
記す
十六年と
あつた
べー

此ののすまね。快く参れと頼み仰下されり。今後の城内すまね見参る。今も
數回参り候。就一箇の秘事あり。故の鎌倉の管領さ。去歲の六月廿二日
卒さる。ひより當管領持氏。其の死年。少くは。其の執權上。叔憲定入道。其の
改め。勤まれば。見候の沙汰あり。然程あり。城主の侍所。別當。年來。改め。其の
より。當管領。御許。容あり。仰。子。其の。那。執權。入道。の。在。り。と。宿望。空。く。り。と
其の。事。流。の。王。の。怒。り。と。其の。隱。謀。の。企。め。御。一。族。の。謀。人。合。せ。鐵。を。磨。き。根。を。取
入れ。籠。城。の。准。備。整。へ。と。其の。名。の。軍。を。遣。り。と。其の。機。を。頭。し。と。其の。衆。議。を。凝。り。
新。田。の。餘。類。を。取。立。て。總。大。將。の。做。さ。る。と。是。義。兵。中。と。軍。を。名。め。り。脇。屋。少。將。義。隆。は。底
倉。中。と。數。れ。ら。る。自。方。主。存。命。で。深。く。潛。ひ。て。あ。え。さ。え。い。は。這。方。へ。來。り。共。の。大
義。を。伸。ぶ。と。宣。ひ。と。故。あり。賊。尼。の。修。安。が。其。の。腹。心。と。り。明。て。生。口。を。鐵。ト
あ。て。既。に。知。り。や。れ。ば。然。る。も。匿。ま。る。の。秋。と。其。舊。の。口。と。今。の。身。の。便宜。と。告。て。向。う。り。れ。り。と

憑く。夢。を。せ。自。方。主。の。河。沿。で。心。を。以。て。今。這。老。尼。の。長。物。を。其。の。據。を。承。り。と。其の
乱。れる。世。の。人心。飯。の中。も。鐵。あり。只。一。朝。の。奇。遇。引。れ。て。其。の。王。を。遣。り。と。其の。機。を。凝。り。
告。め。俺。の。便宜。の。より。あり。と。其の。出家。し。て。且。女。流。へ。果。敢。る。婦。言。と。信。容。で。名。を。告。げ。り。
悔。れ。り。も。何。と。い。は。し。難。く。稍。沈。吟。あり。と。時。種。の。口。を。ひ。き。と。起。る。性。の。色。を。其の
找。り。と。其の。後。方。より。主。の。袂。を。掖。動。と。其の。と。其の。默。止。し。め。目。今。其。主。の。の。れ。り。と
其の。皆。御。利。運。の。前。兆。と。其の。舊。録。既。に。分。明。し。持。佛。不。置。れ。り。位。牌。の。言。の。證。據。不。做
を。不。足。れ。り。尚。這。便宜。と。其の。失。り。後。悔。あり。と。其の。臣。の。任。め。り。と。其の。辭。せ。り。と。論。議。を
め。て。制。め。り。と。其の。此。の。聽。き。と。其の。妙。算。あり。と。對。ひ。て。其の。心。を。覺。れ。り。今。此。の。又。何。を。隱。ん。で
其の。行。ひ。と。其の。知。り。現。一。旦。の。奇。遇。あり。と。其の。心。を。覺。れ。り。今。此。の。又。何。を。隱。ん。で
其の。推。量。せ。り。如。く。は。俺。君。は。是。新。田。の。嫡。孫。前。越。後。守。左。少。將。自。方。朝。臣。と。其の。傳。ま
る。從。ひ。ま。り。一。某。六。郎。左。衛。門。時。能。が。為。孫。烟。主。馬。介。時。実。が。獨。子。と。其の。烟。六。郎。三。時

大草紙の遊

應永五年

種日定る。御前を越えまのれど。南北両朝御合體の後足利義満明使だ。この勢
 ひ小乗し。変詐素より限る。新田種。餘類。根。新葉。枯。え。と。せ。り
 る。この朽ど。神も怒り。人の怨め。と。御和睦。今。小。と。主客の勢。同。か。自。方。に
 軍威。海。振。る。言。裏。奥。の。孤。城。と。落。され。越。路。も。上。野。も。階。び。つ。つ。主。從。入。校。
 往。方。も。定。め。る。旅。より。旅。赴。く。折。る。當。國。の。守。將。胤。王。鏑。倉。管。領。と。竊。小。怨。
 る。より。あり。て。聲。信。々。と。世。の。風。声。と。信。濃。路。を。傳。へ。れ。然。と。虚。実。の。料。り。や。う。千
 葉。の。城。下。小。近。つ。て。且。その。虚。実。と。探。る。く。その。支。果。と。実。多。く。俺。君。大。義。の。資。助。
 是。死。便。點。も。わ。ん。と。主。從。が。其。処。計。議。と。旋。り。と。這。地。へ。成。伴。と。ける。山。豈。あり。ん。と。書。
 録。ある。尼。公。の。算。小。立。より。と。這。吉。左。右。と。算。小。の。差。を。い。方。便。と。て。千。葉。木。殿。へ
 汲。引。と。做。て。給。て。ん。と。耳。邊。諦。ま。當。坐。の。答。小。妙。算。の。ゆ。も。と。う。ち。領。を。廣。く。遊。て。
 却。主。從。小。對。して。い。や。鈍。地。賤。尼。が。錢。下。も。原。是。佛。の。被。と。ま。れ。時。の。ま。り。の。奇。特。の。り。

然。り。よ。り。南。朝。の。殘。將。運。也。と。い。は。る。と。猜。せ。と。の。違。は。せ。と。詳。る。か。女。身。来。り
 る。嬉。し。も。俺。身。老。女。の。さ。る。れ。大。事。小。預。る。べ。い。ね。と。幸。小。と。千。葉。殿。の。願。と。年
 来。被。り。は。れ。見。参。り。の。目。易。ら。折。と。揣。と。え。う。と。竊。の。傳。へ。ま。る。ま。一。更。做。る。と。は。い。亡
 親。の。の。れ。受。の。始。あり。終。も。あ。れ。忠。孝。の。本。意。小。稱。か。任。ま。を。の。飲。一。杯。の。ゆ。り。且
 く。あ。の。運。道。を。さ。れ。て。吉。左。右。と。俟。せ。あ。へ。呼。愛。た。と。祝。言。を。た。て。又。他。事。も。ま。く。を。不。く。負
 方。せ。う。盛。く。領。地。を。い。て。ま。る。ん。あ。ち。あ。ち。を。疑。ふ。と。あ。の。あ。い。な。も。言。一。ト。び。口。より。出。て。駟。の
 軒。が。う。と。思。ふ。よ。り。時。種。先。と。せ。れ。て。の。恥。り。親。意。お。任。と。那。一。談。の。成。否。の。ゆ
 く。ま。の。厄。會。を。を。る。べ。れ。今。よ。り。と。漏。れ。い。ま。あ。の。う。心。あ。め。る。御。前。這。門。邊。に。赤。黒。二
 隻。の。鶏。の。大。く。閉。ひ。し。時。赤。い。肩。と。逃。亡。あ。れ。折。る。卷。主。の。の。れ。と。を。洩。せ。く。その
 意。を。い。ふ。那。赤。鶏。と。南。方。の。殘。將。餘。類。小。壁。言。られ。然。中。の。あ。い。の。る。と。傷。を。被。り
 血。を。塗。れ。脆。く。も。肩。で。逃。亡。せ。り。愉快。ら。ぬ。ま。り。今。ゆ。り。受。の。件。の。一。談。の。の。整。を。俺。身。の

笑々。か共着る。這醉筍の一件近く入る。一場のさそめを。といひ妙算もち笑々
 ひて然らば。兩箇の竹筒の。白鼠の。棚の。ち落と。物の役。立。ざる。器。擇。こ。を。是。ん
 よ。快。節。と。急。せ。販。子。の。呵。々。と。ち。笑。ひ。て。兩。箇。の。桶。の。蓋。を。此。彼。と。換。取。
 調。合。々。件。の。筍。九。合。あ。ま。り。量。り。入。と。樽。油。の。甚。麻。と。尋。と。不。良。油。と。ま。の。あ
 朝。買。や。る。が。その。辰。あ。り。却。立。又。來。ま。せ。その。折。け。の。價。と。取。せん。と。い。ひ。販。子。の。領。え。く。
 何。時。と。も。賜。り。せん。又。脚。用。と。願。ふ。と。心。て。躬。々。兩。箇。の。桶。の。荷。索。操。り。扱。
 榎。の。榎。起。り。声。高。中。外。屋。々。々。と。呼。び。ま。る。走。り。て。又。尋。と。尋。と。然。程。妙。算。の。又
 醉。筍。と。推。考。て。外。面。を。柴。門。と。引。圖。く。足。を。不。故。所。か。る。來。り。却。主。従。の。對。ひ。の。あ。り。
 又。の。ど。く。身。ひ。と。ま。れ。ば。庖。掃。掃。と。傳。る。程。あ。り。態。の。疎。あ。る。ん。と。且。く。凡。一。の。あ。り。と。い。ひ。
 時。種。推。林。め。て。そ。ま。ら。ち。措。あ。り。俺。今。也。火。を。燒。ん。と。この。指。揮。と。頼。む。と。い。ひ。
 妙。算。ら。ち。笑。ひ。て。噫。物。体。あ。り。の。不。と。實。客。の。火。を。燒。さ。る。と。益。と。と。精。悍。く。

立。と。自。方。も。禁。難。く。俱。子。勞。ひ。ぬ。け。り。倦。而。又。主。従。の。等。と。凡。半。响。な。り。日。景。の。く
 傾。々。門。の。槐。は。寒。蟬。の。頻。鳴。く。と。向。上。ま。り。殘。る。鼻。と。忘。水。深。る。官。立。日。絶。て。雲。時
 端。居。の。縁。頬。の。檐。小。宮。む。蟪。の。巢。も。榎。の。彪。脚。踏。小。風。戦。々。黃。氏。昏。近。く。ま。り。比。妙
 算。の。料。理。小。只。一。種。の。豆。腐。の。羹。酒。湯。の。醉。筍。小。木。と。り。添。て。は。天。を。添。塗。
 折。敷。不。成。ら。ち。載。て。の。と。歩。り。且。美。美。の。梳。と。素。木。の。折。敷。取。り。て。王。従。の。羞。め。て。の。不。あ。り。
 寔。不。下。の。田。舎。不。は。れ。の。管。待。ま。あ。り。去。來。東。西。も。る。况。や。早。の。言。ひ。火。の。高。臺。を。結
 び。て。捲。る。可。の。阿。壁。の。ま。で。の。は。れ。も。旅。の。あ。れ。椎。の。葉。も。盛。り。と。詠。れ。歌。の。あ。る。も。傳。る
 時。也。あ。り。け。り。飯。も。程。る。く。ま。あ。り。且。又。箸。と。取。あ。げ。ぬ。と。又。口。の。恆。と。も。切。り
 竹。葉。も。過。り。ぬ。長。途。の。疲。勞。の。瘡。り。て。今。宵。は。ま。く。睡。ら。せ。あ。ん。と。喃。々。と。他。事。も
 不。成。待。態。不。主。従。の。執。ひ。と。述。く。共。侶。の。美。美。の。蓋。と。取。り。て。田。舎。得。酒。油。の。花。を。る。
 香。も。る。に。柳。の。白。竹。著。と。深。る。と。不。成。鮎。料。理。の。折。あ。る。饑。と。擇。ま。ぬ。人。あ。る。輒

射の一杓水も信ありけん。必ひう。登時又妙算ハ不盡とて勸はす。負方の主推戻く
 且ある下よりけめと。辞ひぬ。果一をけれ。妙算みくら。取むて。あき憚りせられども。
 然るハ阿羅と試てん。凡させぬと身退く。身射小酌。半盞許。一吸不飲盡
 去て懐紙をとり。出。兩三回不盡の縁を拭。膝を找めて。恭くまわら。負方をう受
 こそ酌しと。馳傾けて。又妙算返一ぬ。その家臣と會釋。主客献酬の
 口誼不盡。巡れも。負方主ハ沙量をれば。二度不と。辞ひぬ。妙算を乞く。請薦せ
 必ひの随不醉。たり。又時種。中浮ける。時種。素より酒を嗜む。竟。独引受。いと
 大なる。醉竹筒の酒送る。喝けり。その間。妙算。小献。まあり。酌を任。甚。合酒
 量。をれば。半盞。多。六。喫。ざり。既。不。見。其。暮。ハ。妙算。ハ。行。燈。小。火。を。点。蚊。遣。と
 焼てる。四面。八。表。の。物。を。以。主。従。と。慰。め。る。語。次。不。回。ける。中。実。吉。命。京。録。倉。より
 かん。訪。像。簞。と。て。殿。建。と。索。させ。ぬ。と。す。小。焼。ハ。一。個。の。後。者。を。ね。て。漫。然。と。あ。ひ。い。

危。危。正。不。信。と。ま。と。必。と。自。方。う。ち。少。く。任。か。の。う。ハ。理。り。ぬ。縦。十。名。二。千。名。士。卒。を。左
 右。小。従。へ。う。と。の。妙。算。の。敵。を。撞。見。い。を。九。牛。の。一。毛。也。俺。身。を。成。る。不。足。さ。べ。一。且。従
 者。の。言。け。れ。盤。纏。續。々。外。見。不。立。進。退。不。便。の。と。亦。殃。危。を。招。く。不。度。多。然。ハ
 主。従。一。人。も。俺。と。敵。を。避。る。御。あり。又。時。種。が。武。勇。勁。捷。牆。と。踰。屋。小。登。る。狙。候。の
 枝。を。傍。が。如。く。堅。と。破。り。鋭。と。摧。く。石。を。卵。と。壓。ま。り。易。ら。加。旃。時。種。半。鈞。の。聲。月
 力。あり。壁。言。建。保。の。義。秀。親。樹。又。近。世。の。少。え。る。妻。鹿。孫。三。郎。と。て。中。操。へ。い。あ。ら
 せ。り。あ。ま。り。と。我。者。ら。妙。算。の。討。兵。を。我。脱。て。恙。多。く。を。ぬ。り。の。う。で。用。心。せ。ら。る。と。密。め
 じて。説。諭。の。妙。算。ハ。有。理。々。々。と。及。合。多。く。も。存。疑。不。て。実。語。と。も。表。面。の。ち。り。と。時
 種。ハ。多。く。猜。して。酒。氣。不。乘。ら。進。ま。出。く。巷。主。目。今。俺。君。の。宣。ひ。を。疑。て。虚。語。を。り。と
 必。ひ。の。秋。秋。ハ。本。事。を。せ。ぬ。と。勢。ハ。猛。く。縁。頼。へ。立。と。自。方。呼。禁。て。已。ね。と。宣。へ。と。醉。さ。る
 人。の。癖。を。亦。聽。べ。う。も。あ。ら。り。と。妙。算。ハ。合。笑。多。く。行。燈。の。益。燈。取。て。灯。口。を。其。力。ハ



あつみ

妙さん

有像第九



あつみのあつみ
 難藏船藏夜
 来會錢ト庵
 ひるみのわいのわい

荒海

獨語々密引て試るを那主従の外面を渡すてち驚えん送る要時耳たつ俺這
 蒼々と南朝の由縁ありのよどの隠宅を欲とよひけん那後者お呼門と秋暑者堪ぬを
 言種お要時の宿りを請ひよるその圈套お入りの當下俺又後々の為におよひし
 われお戦お勝る黒鷄を多く竊お絞殺と樹柱の間の棄棄措り然りぬるゆて出
 迎て正屋お倡引茶と薦めり丁寧お款待を程お件の武士を錢卜お問をその身は
 宿望の成果を知まほしといひおのく便りおるて箇様々おの誘へ馳て佛間お相
 伴て錢を占るふくと占象の大吉と報知と飲せ觀世音お這歡びをさるるを
 稍久く普門品を讀る佛間で時を待せり拵置れ義貞以下の位牌とよも見
 せえ為に那們果と位牌をを目を覗く愀然とある至て問ひぬる件は武士の新
 田貞方又從者の畑六郎二時種おとあけめと猜者を猜しても名告らせり人
 たへあつとよひ決りぬる豫の計謀の今あの時とよひおけれは正は俺身の素

生と説示新田お舊縁ありと殿の隠謀色々誠一お耳お告りて
 孫と總大将おとあけめ共ぬ義兵と起る軍の名ありと千早城内て軍議の
 望とてお言相譚課せりおの貞方の為疑て早ぬ名告りてと那時種が焦
 燥と主もまさで信と名告て意中を諦め信れ猶も主従の心を緩させん為
 けおらひ錢卜の大吉といふゆ豫の口傳お辯を加て最中愛と説示せしと貞
 方主従らちて飲さるおわねも南北兩朝お聲言たる赤黒二隻の鷄の丸戦お
 赤鷄の肩より心お掛て云云といれ折れを慰めて御高お絞たる黒鷄を自滅
 せといひと満めて是もぬえ祥事をと壽たれがら鮮て送お止宿の心あり信と折
 りお餘酒と豆腐を賣りてお却貞方を留めりてと隱語を知らせり人
 るお胆の浅れお畑時種が脊力の方丈無當の勇ありと豫も信せりてと
 とおよふ言と設てそのせお那奴醉る折れぬと口車お乗せりて此百榎

直なる踏雲に仕夏且一覽と後の楚と隊與と定む。船藏よりと急せんと
 客之行燈を紙燭を秉て火を移し胞兄弟俱の立ありと紙門を半分推開し酔臥る
 主従と瞬もせ得とて紙門を圍て退る。離藏雲時沈吟と那陀々花酒の奇
 特の目前主も家隸も仰及て死しるの異なるも然とて虚をひ下され殿の恩臨の
 程多しんは船藏途を必迎て母の甘く行れる始末具ふまのげと死伴とあり来よ
 殿のささめひる人敷か心つとつ折れをまうと俺們兄弟先進と那主従
 索と楸の尙醒うとも踏雲を氣にの譏ひくと耳に示せ船藏連の領たてとこの
 用心尤も申夜より曇り夫春れて月鮮明と蕉火のとも便りありと今も咱們を
 走一走の鄰村まで来て来て臥房の心づらもこの草鞋と穿着て東に投て走
 けり。徳而妙算難藏も柴折焼て茶釜沸物危とち常取七賓客諸の鹿茸
 掃除果て候程小庭の草葉集く虫の露に声小肌膚寒くと暁方の露

随小猛可の馬の足音器械合する許りの士卒立後備と馬の足音
 とをゆりて来るに別人を當國の郡領千葉介兼胤但見は這日の打拵の萌葱
 威の身甲不古金襴の戦袍輪鐵入り梨子打鳥帽子の黄金製作の大刀と踏南
 部栗毛の三歳駒の雲珠鞍指と優ふら乗り駒捌れも意氣揚々と柴門近き
 程小案内は立る船藏へ一返る那方より先走り之速く折戸と破と推開し母はよ
 大哥も快出と殿の渡をのりて呼ぶ声も妙算の離藏と共侶の慌忙に出迎し折
 戸の左右小平伏し登時兼胤の究竟の士卒四五十名兼算の四方に捕圍せ馬乗
 故と悠々と正屋不到の上座を登尻より杖と物具多る老當近臣一左右
 坐列す。悠り一程も妙算の跡も跟死裡面入て兩個の息子共侶をかぞへ拜誦を
 胤遙かれを當座の女僧妙算も近うまれと招きとせとみづから唐衣美て知
 南方の殘將新田貞方の義小陸奥と没落せし追捕をくんと他を

あるを以て水とされ水に隠れ火に遇へ火に隠れ其勢の討を殺脱て出没定まると
是れ亦その勇力世に捷れて且則姪の長たれば是た久しく今然とてち捕
とるは只是國家の患を治むと室町鎌倉兩御所の大抵心安くばく貞方を捕
捕てまわす方のあふ勸告員乞ふ依るべとの旨嚴るらん下知あり兼胤若もこの年來
鎌倉殿の御恩念ふと父祖の舊領を相續するも且宿願ありとて日夜肺肝を
摧つて稍計畧を得たりと執權憲定入道より告免許を稟て兼胤を全
あつと都鄙遠近に流言せし人那貞方を執り城下を執り誑引を爲しとあわれむ
尋常尋隊配を捕監てを生物人と做するも數百の運兵ありとも他又例の幻
術をも脱去るもそのあつたの故小左の石さの肩又思慮を回らせし家小若く
傳る院々花酒の一方あり此は唐山宋の商船をけ宋兵兵と喚れりのが小松は大臣

重盛公の献り奇方への論執裡毒蛇神通不思議のれとゆふ件の上
酒と喚て後酔て睡不就くと危心神遂中七失と日首の月を磨き解薬を用ひ
つと死に醒むと死なきの壁那劉去石中半日の酒も掬りたり然れば又宋の時
歹人の旅客を飲め之暇暇を床を間殺と東西を夏るとと家汗薬をその
毒の循るに遠く飲むの卒倒れも幾時を寝ると醒來ると急を憶ふ
院々花酒のそれ似たるも睡らぬれその毒循ら下へ毒母の循り後醒ると右の
如し是を掬れる所軍陣に要ありてその家小若くするむう近衛院に死
時お妖婦玉藻がふふの多先祖千葉介平朝臣常胤主と云浦介義明上總介
廣常若も勅命と下野洲奈須野の楓を射獵せしと重盛公竊ふ先祖を
側にお招き近づくと和殿奈須野に折九尾の狐が人の変と障身と做すとあり見
その機を猜し便點とて這院々花酒を飲めと飲せり這藥酒は信

とて傳來效驗解藥の方を具ふ傳授しあり。今に至るその奇方と家の秘書とて相傳せり。あつての比林示獄の者一人、小件の酒を飲めて果否を試みる。小弥増て経験尤神妙と信ぜり。亦那貞方、這藥酒を飲まば隱形五遁の術あり。ともを施さず由りて搦捕れんと疑ひ多し。然れば旅客の卒る處に客店酒茶の坊賈。們のいへし神社佛閣に至りて計策を指示し。訪像を引合て尙貞方等とせり。便點を以て這藥酒と薦め、睡れ就し。許せし下知、件の陀々花酒一斗、外小機関ある醉筍と鮮藥一貼と相添ふ。そのれ共の遞与置きた鮮藥の西女を東西小似れど、倘術で自方のれ、俱飲あり。せむと速に救ん為に介る。當庵の女僧妙算母子の原を刑餘のれされも。近屬の錢下を問ひ、日毎小言れ。この子灘藏船藏と共侶小孤を密計し與りて功あり。先人の罪を贖んと願ふより。藥酒醉筍鮮藥を預けて縛り、せむ孤が計する所違ひ。新田貞方主従、那風声と実語を

果して當所小來りし折妙算逸速く見せし言を設て替引入れ。遂条件の主従小飽。まに陀々花酒と薦め、酔臥し。輒虜せしより、船藏をのせえあけ。高雨度の口。状ふより、詳小知りぬ。功甚大あり。灘藏船藏等が親にけ。荒海鱈九郎有基。身後の罪名を削去り、兩個の兒子を召出。本領を返し與ふ。勿論貞方時種等。その身の意中を誦し。みづから名告りし。れが失錯あるべし。ねども孤且目。今実檢せん。細り置り。のれを。も向へ妙算頭を擡て、冥加餘る。御恩澤亡夫。小面と起。親子主人を飲む。皆殿さあ。御武徳あり。然も搦獲り。とせえ。那貞方。爲主従と。老る尼が口車。兼して虜小者。べりの骨の折れ。るの。既小酔臥。せむの死。方の。異なる。ね。細り。の。目。か。然。か。下。知。と。せ。え。と。の。索。被。せ。む。が。成。成。り。ゆ。り。死。と。の。不。等。胤。領。に。今。の。緊。糸。細。め。快。々。せ。む。と。急。した。る。下。知。小。從。小。灘。藏。船。藏。等。勢。を。憑。り。准。備。の。捕。索。近。習。の。壯。武。者。共。侶。小。躬。て。臥。房。小。

綱へ。黒白も知らぬ。自方主と畑時種と引起。素と被けても俱落。々々。郷縛。榮々。
 倒れけり。既しと兼。浪も臥房の内。小杖。入り。近習。小燭。と揚させ。再件の主従を
 引起。させて。泊。と。て。寝。れ。れ。も。人。品。骨。柄。現。自。方。小。相。違。ま。一。藥。酒。の。效。驗。神。妙。也。
 那。幻。術。も。勇。力。も。怕。る。小。足。を。所。れ。も。心。を。緩。さ。し。行。心。あ。ら。ん。吊。を。そ。來。せ。一。綱。轎。子。這。
 臥房。を。早。入。さ。せ。主。従。俱。あ。ら。し。無。せ。目。を。經。る。と。も。醒。る。と。あ。ら。ト。云。思。へ。も。一。日。も
 留。置。入。の。要。る。一。瓶。の。這。首。より。啓。行。と。あ。生。拘。を。鎌。倉。へ。牽。り。て。お。死。く。ゆ。え。あ。は。て。ん。
 灘。藏。と。船。藏。の。允。七。今。番。の。伴。小。立。せん。就。中。妙。算。才。覚。の。感。感。る。あ。あ。り。あ。り。録。
 倉。不。赴。多。絆。の。始。末。と。ゆ。え。あ。は。て。為。御。沙。汰。あ。は。れ。る。多。く。傳。達。不。て。送。漏。も。あ。ん。
 執。權。回。せ。ま。と。死。汝。み。づ。く。演。説。が。營。中。の。首。尾。宜。し。め。一。休。れ。が。汝。も。推。續。だ。
 ち。那。地。へ。ま。の。ま。か。し。よ。て。雜。兵。一。兩。名。を。送。し。と。路。の。安。内。小。甘。ん。あ。の。是。我。も。あ。ら。ゆ。い。へ。
 と。丁。寧。小。示。さ。し。尚。賞。感。大。く。あ。ら。ざ。り。け。れ。が。妙。算。灘。藏。船。藏。等。の。天。由。も。升。る。

心地。と。異。口。同。音。小。言。受。ま。う。欽。限。の。多。り。け。り。然。程。小。雜。兵。們。の。准。備。の。為。小。市。
 の。と。來。さ。し。二。挺。の。綱。轎。子。を。早。入。る。と。兼。浪。下。知。し。と。そ。終。小。自。方。主。と。時。種。を。這。
 轎。子。の。あ。ら。し。無。せ。て。緊。く。鎖。し。と。棹。出。さ。せ。許。す。の。士。卒。小。成。り。し。鑣。奴。が。た。と。幸。居。
 馬。小。閃。り。と。ち。無。れ。が。荒。海。灘。藏。船。藏。の。近。習。の。中。小。立。雜。り。と。馬。の。左。右。小。諫。添。ふ。
 たり。隊。伍。素。々。と。徐。行。く。方。の。山。峽。小。横。雲。の。朝。出。立。彼。誰。時。の。風。數。庭。の。
 小。草。と。折。布。と。雲。時。目。送。る。妙。算。の。の。身。の。け。の。起。行。小。心。の。そ。く。り。あ。け。の。原。の。這。
 妙。算。が。良。人。を。け。る。荒。海。鶴。九。郎。有。基。の。亦。足。千。葉。の。家。臣。小。て。千。葉。郡。の。眼。代。
 小。兒。邪。智。會。林。の。墨。吏。を。年。來。私。慾。ま。り。け。る。民。の。為。小。噉。訴。せ。れ。罪。戻。脱。
 小。小。辭。さ。く。久。く。禁。獄。せ。れ。小。獄。舎。の。中。を。身。ま。り。け。り。あ。の。故。小。の。妻。と。兩。個。で。見。守。
 荒。海。灘。藏。船。藏。の。城。下。を。追。放。せ。れ。め。も。他。御。へ。告。を。と。九。され。免。の。ゴ。と。あ。り。
 小。封。内。小。置。れ。る。あ。る。戰。國。の。以。旧。習。を。虚。実。と。外。へ。洩。さ。下。と。て。是。よ。り。以。來。母。子。



大坂御前第一冊卷二

廿二

目録五七五下



わかれ居野の下の声は
護送生房争船
赴鎌倉
あまのさか

伏見御前第一冊卷二

目録五七五下

目録第九

三名身の便着るる。灘藏と船藏の人の為馬を追ひ又川舟を漕ぎしれど
それより傭者稀るれば果の博徒不富居と僅小口と鯛ひけり又その母親の女僧の
妙算と法名と福草村の禰小の弁と締ひ托鉢し餓小充んと欲せし
鰐九郎が非義ヲ入りし。まきく妻の助言よれ。徳は新尼妙算の鰐九郎より
心ざのいとかそつゝ死められむ。早人們皆憎むての合まひどの内の施まふれ
まらるれば妙算の困窮といとせん術るるけり。企ふは這妙算の原是似非
巫の女思ふ。婦女子小早ある小文才あり。あまの幼稚の時より親の生活はあける
陰陽説相卜筮の趣と見熟聞熟するけり。記憶も人の提れけり。今小至る
あれを忘れず人窮れ邪念起る。凡浮世の習俗を妙算の苦に随ふ年来
念下は觀世音より夢想の示現を蒙りたと詭唱て起せ。錢トと生活
せま欲く初程の街衢立辯任一人の歩を駐めてその吉凶と占ひ。信まふれ

わの信せぬあり。信ざるの魅されて當らば。はは笑ひ。里人も新小走り
奇と好む見識をなく立ちて世評高る。随小妙算の又街衢立せ日毎
菴小在る。その占の行ふより。灘藏船藏も母の尻を身の皮さとの。來
る。悠り一程。當國の郡領千葉介兼胤の年来鎌倉出仕。侍所別當補せ
られんと望む。左右の障りあり。その宿望と遂さる。貞方立追捕の。京
鎌倉より下知せられ。搦捕てまわさる。勸賞の乞ふ依るべ。とと嚴み。えん
貞方主従を誣引きて虜めせ。その功を。俺宿望の成就。身守思と。却鎌
倉密訴と計策を献り。兼胤叛逆。城の趣と詭唱。近国より流し。竊の
家傳の藥酒を醸し。客店その餘も坊賈の計策を。示し。件の藥酒を
預措く折妙算より。洩す。忠節の密訴ありと。倡て千葉の城内推参し。
賤尼と亡夫の罪より。城下を。追れ。の。殿の。あ。を。あ。ふ。より。身。の。外。は。え。を。を。

大正十一年

廿四

推して忠告を為す。その所以箇様々々已が鏡下の如く。為体を演述し。徳が客店酒肆
 のも捷りて賤尼が其弁の如く。衆人聚合所なり。いそ這回密策を預め。其の拙
 藏船藏等と共に侶。日毎の群集。心づけて。自方這地。来りて。術計を施し。藥
 酒を薦め。虜ふとす。あらず。一。倘功成らば。見子も。召還させ。願ひ。願ひ。願ひ。
 と。やえ。あげ。思慮。口才。女流。さ。も。成。成。成。面魂。小。多。兼胤。則。その。不。隨。自
 方。主。従。の。訪。像。と。藥。酒。を。餘。の。東。西。を。形。の。と。く。取。得。妙。算。の。外。新。由。義。
 負。以下。の。位。牌。を。造。り。之。仙。回。置。と。請。ひ。たり。其。議。の。亦。り。あ。れ。兼。胤。又。件。は。位。牌。の。古。色。を
 着。て。造。り。し。の。竊。妙。算。不。取。せ。け。り。徳。而。兼。胤。と。妙。算。が。秘。計。不。幸。不。し。然。り。由
 名。將。勇。臣。の。運。の。窮。と。い。ふ。も。果。敢。る。虜。ふ。せ。れ。薄。情。を。け。る。も。竟。畢。竟。負。方
 主。従。の。録。倉。牽。り。て。去。れ。後。の。話。説。甚。麻。を。も。そ。次。の。巻。小。解。分。を。聽。か。し。

開卷驚奇俠客傳第一集卷之三終



